

R6年度 七城中学校 学校評価アンケート

※アンケート実施期間：R6.9/13～9/30

※回答人数：前期 生徒129名・保護者104名・教職員15名

後期 生徒 名・保護者 名・教職員 名。

※数値は「そう思う」「おおむねそう思う」と回答した人数の割合

1. 楽しく学校に通っている。

心

	前期	後期	差	《 対策等 》
生徒	86.0%			○学校生活の中で、「友達と共に過ごす(なかまづくり)」「夢や目標に向かって挑戦」「新しいことを学ぶ」「おいしい給食」「学校行事や部活動」「読書」など、楽しみを見つけて生活できるよう、後期も生徒を応援していく。
保護者	93.2%			
教職員	100.0%			

2. 他者を認め、誰とでも仲良くできている。

心

	前期	後期	差	《 対策等 》
生徒	81.3%			○4月から学校全体で「受言・発言」を大事にしている。受言・発言の基本は、相手を見て真剣に話を聴く、相手に伝わる声の大きさを考えの根拠を明らかにして発言する、である。これが他者を認めることの土台になると考えている。
保護者	90.4%			
教職員	93.3%			

3. 自分には、いいところ、得意なこと、がんばってできるようになったことがある。

心

	前期	後期	差	《 対策等 》
生徒	72.1%			○生徒一人ひとりがよさや可能性を持っている。ただ、そのことを生徒にきちんと伝えなければ生徒の自尊感情は育たない。大人がはっきり声に出して、生徒を認め、ほめ、励ましていくことを広げたい。
保護者	95.2%			
教職員	100.0%			

4. いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。(生徒)

いじめを許さず、命や人権を大切に教育に努めている。(保護者・教職員)

心

	前期	後期	差	《 対策等 》
生徒	94.6%			○「理由があればいじめでもいい」という考えでは、いじめ問題は解決しない。人権教育をさらに推進し、差別を見抜き、許さない態度が身に付くよう努める。いじめや差別があった場合は、決して見逃さず丁寧に対応していく。
保護者	79.8%			
教職員	100.0%			

5. まわりに迷惑をかけないよう、きまりを守り、正しい行動ができている。(生徒)

社会人の基礎づくりとして、ルールやマナーを守る生徒の育成に努めている。(保護者・教職員)

心

	前期	後期	差	《 対策等 》
生徒	76.7%			○8割の生徒は「自律」できている。みんなが安心・安全に生活するためにきまりやマナーがあることを伝えながら、正しい行動をとることができる自律心を育てていく。
保護者	87.5%			
教職員	93.3%			

6. 授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる。(生徒)

夢や目標に向かって主体的に学び続ける生徒の育成に努めている。(保護者・教職員)

学力

	前期	後期	差	《 対策等 》
生徒	65.1%			○教師一人がずっとしゃべり、生徒は黙々とノートをとる。そんな授業を脱却し、生徒が友達や教師と協働しながら課題解決をめざす授業、教師が自分の発言をがまんして生徒の発言をつなげ、広げ、深める授業を七城スタイルとする。
保護者	86.5%			
教職員	100.0%			

7. 授業の内容はよくわかる。(生徒)

わかりやすい授業に努めている。(保護者・教職員)

学力 

	前期	後期	差	《 対策等 》
生徒	64.3%			○①授業(50分)の中で基礎・基本の定着を図る時間を確保する、②めあてとまとめを板書する、③(生徒の)発言は考えの根拠を明らかにする、④ICTの活用、という共通実践事項を後期も継続する。
保護者	77.9%			
教職員	100.0%			

8. 家で自分で計画を立てて勉強をしている。(生徒)

宿題など家庭学習に進んで取り組んでいる。(保護者・教職員)

学力 

	前期	後期	差	《 対策等 》
生徒	43.4%			○菊池の子「学習の手引き」には、家庭学習の時間の目安(平日)として、中1が70分、中2が80分、中3が90分と示されている。学校で、お互いの学習法を紹介し合い、自分に合った学習方法を見つけ進んで学んでほしい。
保護者	64.4%			
教職員	66.7%			

9. ゲームやスマホの使い過ぎに気を付け、家庭での生活リズムは安定している。(生徒・保護者)

学校は、家庭、幼保小高、地域と連携し、健全な心身をもった子供の育成に努めている。(教職員)

健康 

	前期	後期	差	《 対策等 》
生徒	41.1%			○ゲームやスマホ等の使い過ぎ、見過ぎ問題は、健康・体力面、学習面、生徒指導につながる深刻な問題である。この題については、家庭との連携のもと、粘り強く啓発を進めていく。
保護者	40.4%			
教職員	93.3%			

10. 相談ごとを相談できる先生や友達がいる。(生徒)

学校は、相談ごとに適切に対応している。(保護者・教職員)

健康 

	前期	後期	差	《 対策等 》
生徒	62.8%			○七城中は、先生も友達も、相談があれば真正面から向き合おうとする人ばかりである。解決に導けなくても話を聴くことはできるので、遠慮せず相談してほしい。相談相手は、周りにたくさんいるのですぐに相談してほしい。
保護者	79.8%			
教職員	100.0%			

11. 授業や行事、部活動等に積極的に参加し体力づくりができています。

健康 

	前期	後期	差	《 対策等 》
生徒	65.6%			○全体的に体力が少しずつ落ちている。肘付きなど姿勢が崩れている生徒も数名いる。体育の授業での基礎体力向上+「自主的な体力アップの取組」が必要である。運動不足を解消し、活気ある七城中を実現する。
保護者	89.4%			
教職員	93.3%			

12. 交通安全、防犯や防災について意識し、安全な生活ができています。

健康 

	前期	後期	差	《 対策等 》
生徒	82.2%			○登下校の際、ヘルメットと安全タスキを着用している生徒がほとんどである。しかし、「誰も見ていないから」とヘルメットを途中でぬぐ事案も起きている。「事故にあってからでは遅い」「自分の命は自分で守る」を言い続ける。
保護者	90.4%			
教職員	100.0%			

13. 掃除や節電など、美しく、優しい環境づくりに努めている。

健康 

	前期	後期	差	《 対策等 》
生徒	70.5%			○中庭の草むしりなど一生懸命でよかった。無言掃除については、掃除はじめの黙想の意味を再度考えさせる。 ○学校も家庭も地域も、大人も子どもも、みんなで「節電」に取り組む。持続可能な社会のために。
保護者	93.3%			
教職員	93.3%			

14. きちんといざつができています。

地域 

	前期	後期	差	《 対策等 》
生徒	88.3%			○「おはようございます」と「さようなら」の挨拶、来校者への挨拶はとてもよい。授業開始と終了時の挨拶など、集団になると声が小さくなるので、職員やリーダーから率先して挨拶をするなどして、挨拶の音が響く七城中にする。
保護者	86.4%			
教師	73.3%			

15. 地域をよくするために、何をすべきか考えたり、行動したりしている。

地域 

	前期	後期	差	《 対策等 》
生徒	45.0%			○米作りやビオトープ作り、吹奏楽部の演奏などが地域貢献につながっていることを価値付けし、生徒に自信と誇りを持たせることで、利他の心を育み、更なる行動化を促す。 ○公民館利用のルールについて大人が範を示す。
保護者	50.0%			
教職員	66.7%			

16. 学校は、家庭や地域と連携し、学校の様子をホームページなどで分かりやすく伝えている

地域 

	前期	後期	差	《 対策等 》
生徒				○プリントによるお知らせは、家庭に届くのに数日かかったり、届かなかったりすることもあるので、安心メールの配信やホームページによるお知らせへと変更することを考えている。
保護者	79.6%			
教職員	100%			